

来村者から見た五木村の観光の課題について

長谷部 俊之

熊本大学 政策創造研究教育センター 政策研究員

熊本県中南部の球磨郡五木村は、県内で最も少子高齢化、過疎化が進んでおり、かつ産業においても主産業である林業でさえ大半が小規模で厳しい状況におかれている地域である。その上ダム建設に関する問題や農産物の猿、鹿による被害の深刻化により村民は生きる気力を失いかけ、村は衰退しつつある。しかし、五木村には豊かな自然、歴史ある文化財など後世に残すべき宝があり、それらに魅力を感じ来村する人々も多くいる。五木村を活性化させ、村民の生きがい作りを図るためにも観光産業が今後ますます重要となってくる。本稿では、五木村の観光の現状を把握するために、五木村の道の駅前駐車場で来村者（バスツアー客を除く）に対し質問紙調査を行い、五木村来村者の構成や行動パターンを調査した。その結果から現在の五木村の観光の問題点を挙げ、これからどのような点を改善していくべきかについて考察を行った。

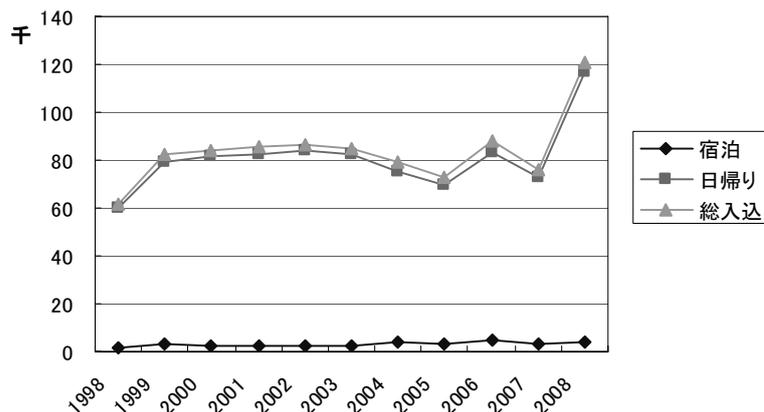
1. はじめに

熊本県球磨郡五木村は熊本県の中南部、人吉市の北に位置し、人口1,375人（2009年11月30日現在）¹⁾で九州山地の山岳地帯にある小さな村である。五木村は国定公園や県立自然公園の構成地であるため自然的資源が豊かである。また五木の子守唄の発祥の地として文化的資源も豊富である。秋には一大イベント「五木の子守唄祭り」も開催され県内外の観光客で大いに賑わっている。現在、五木村の総人口は1965年の人口（4,981人）に比べ6割以上減少しており、県内で最も少子高齢化、過疎化が進む地域である。また産業に関して、五木村は山林面積が全体の約97%を占めていることもあり、長らく林業に依存する状態であった。しかしその主たる産業でさえ、大半が小規模で個人経営は厳しい状況である。木材不況や後継者の林業離れ、林業従事者の高齢化と合わせて近年は農産物の猿、鹿による被害が深刻さを増しており、林地は荒れ放題となっている²⁾。

表-1、図-1では1999年以降、熊本県内の総入込客数は7万人台から8万人台で推移していることが分かる。2008年には観光客数が大きく伸びているが、これは蒲島熊本県知事がダム計画の白紙撤回を表明し、また民主党もダム計画の見直しを発表する中で五木村への関心が一挙に高まってきたことも影響していると思われる。五木村への関心が高まっている現在、五木村を活性化させるための政策の一つとして観光産業が注目されている。本稿では、五木の振興の一翼を担うであろう観光産業に注目し、その中で五木村来村者の構成や行動パターンを調査することにより、五木村の観光の課題について考察を行った。この調査の実施のみでは五木村の振興に直結するとは限らないが、五木村の振興の一つの柱である観光産業が発展していくための参考資料になれば良いと考える。

表－1 五木村の観光客

年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
宿泊	1,565	3,438	2,077	2,748	2,245	2,273	4,248	3,533	4,844	3,482	4,295
日帰り	59,993	79,003	81,598	82,614	84,181	82,504	75,209	69,402	83,173	72,563	116,656
総入込	61,558	82,441	83,675	85,362	86,426	84,777	79,457	72,935	88,017	76,045	120,951



図－1 五木村の観光客

(資料) 表－1、図－1 は熊本県観光統計表より一部修正

2. 質問紙調査

(1) 概要

2009年9月18日(金)、19日(土)、24日(木)、26日(土)、27日(日)、10月1日(木)の6日間に渡って、道の駅：「子守唄の里五木」の駐車場で来村者全141組に対して質問紙調査を行った。

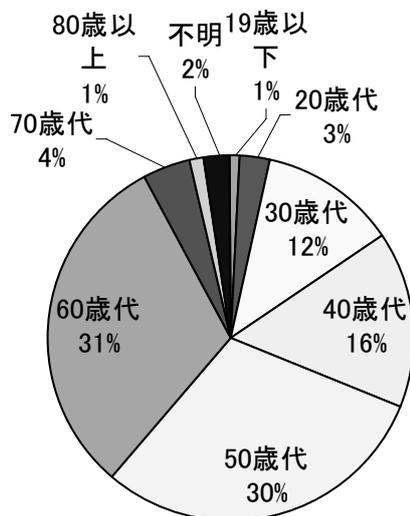
(2) 質問紙調査の集計

a) 五木村来村者 (年代別)

表－2、図－2では、60歳代が44人(31%)、50歳代が42人(30%)となっており、両者で全体の過半数を占めている。それに対して19歳以下は1人(1%)、80歳以上は2人(1%)、20歳代は4人(3%)となっている。上記のデータにより来村者の主軸は50歳代、60歳代で、それらの年代から外れるにつれて来村者の割合が減っていることが分かる。70歳代以上や19歳以下の来村者に関しては年齢的な問題もあり、割合が少ないのも仕方がない部分はある。しかし、ここで特に問題なのが20歳代の来村者の割合の少なさである。若者にはあまり観光地としての魅力が伝わっていないことを伺わせる。

表一 2 五木村来村者（年代別）

年齢	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	不明	計
人数	1	4	17	22	42	44	6	2	3	141



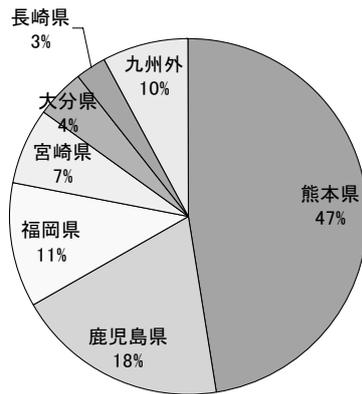
図一 2 五木村来村者（年代別）

b) 来村者の発地（都道府県別）

表一 3、図一 3 では、熊本県は67組で全体の約半分（47%）を占め、続いて鹿児島県が27組（18%）となっている。ちなみに九州外の都道府県の詳細は東京都（2組）、神奈川県（これ以降各1組）、栃木県、愛知県、京都府、大阪府、岡山県、広島県、山口県、および愛媛県となっている。以上より、来村者の発地は地理的条件が大きく影響していることが分かる。熊本県は九州の中心に位置しているため、時間の面や負担の面からも九州内の他県に比べ比較的行きやすい環境にある。中でも九州南部に位置する宮崎県や鹿児島県は、北部に比べ来村する割合が高い。また九州外の都道府県の合計は全体の約1割しか占めていないことから五木村の魅力が全国的にはまだ浸透していないと考える。今年はマスメディアで取り上げられることも多くなった五木村ではあるが、ほとんどがダム問題に関することであり、観光面を含めて五木村全体を紹介した報道は少ないものと思われる。

表一 3 来村者の発地（都道府県別）

県名	熊本県	鹿児島県	福岡県	宮崎県	大分県	長崎県	九州外	計
組数	67	27	16	10	6	4	11	141



図－3 来村者の発地（都道府県別）

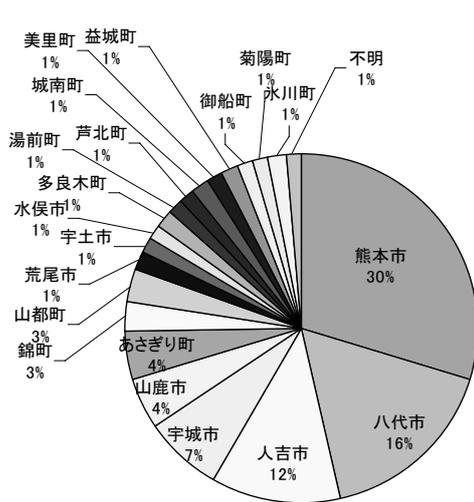
c) 来村者の発地（熊本県内市町村別、市郡別）

図－4 は来村者の発地を熊本県内の市町村別にしたものである。表－4、図－4 では、熊本市が20組で全体の3割（30%）を占めている。続いて八代市が11組（16%）、人吉市が8組（12%）となっている。今回の調査で来村者の発地は、県内北東部の阿蘇地域や西部の天草地域を除いて県全体に広がっていることが分かった。その中で北部より中、南部の市町村が多いことも分かった。五木村の来村者の数自体は多くは無いが、来村者の発地の範囲が広いということは、県内全域で五木の知名度はある程度浸透しているといえる。しかし、2008年に限っても五木村の観光客総数は120,951人で熊本県の観光客総数（58,115,500人）に占める割合がおおよそ0.2%であり、全体的には依然として絶対数が足りない状況である。

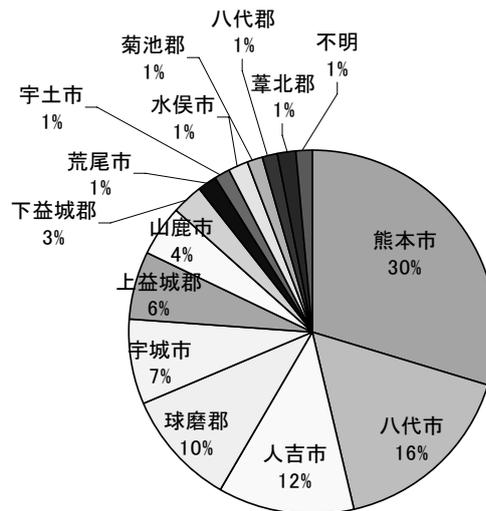
図－4 に対し、図－5 は来村者の発地を熊本県内の市郡別にしたものである。表－4、図－5 では、北部に比べて中、南部に来村者の発地が多く分布し、特に中部に多いことが分かる。これは熊本市や八代市など上位に位置する自治体が中部に位置しているためと思われる。この2市で五木村の来村者の約半分を占めており、観光を展開する上でも重点を置くべき地域である。

表－4 来村者の発地（熊本県内市町村別、市郡別）

	熊本市	八代市	人吉市	宇城市	山鹿市	荒尾市	宇土市	水俣市	上益城郡(4)		
									山都町	益城町	御船町
組数	20	11	8	5	3	1	1	1	2	1	1
	球磨郡(7)				葦北郡(1)	下益城郡(2)		菊池郡(1)	八代郡(1)		
	あさぎり町	錦町	多良木町	湯前町	芦北町	城南町	美里町	菊陽町	氷川町	不明	計
組数	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	67



図一 4 来村者の発地（熊本県内市町村別）



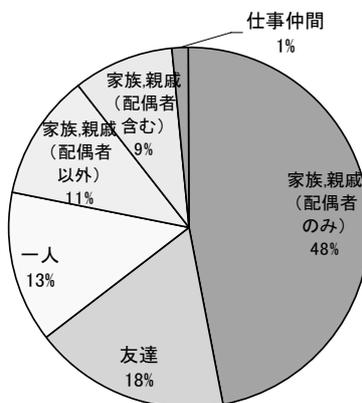
図一 5 来村者の発地（熊本県内市郡別）

d) 来村者の属性

表一 5、図一 6 では、「配偶者のみと来た」が66組で全体の約半分（48%）を占めている。それに対して、「仕事仲間と来た」が2組（1%）、「配偶者を含めた家族、親戚と来た」が13組（9%）となっている。今回の調査で配偶者以外の家族と一緒に来村する人の割合が少ないことが分かった。「友達」や「一人」の場合よりも配偶者以外の家族と来村している場合が少ないことは意外であった。来村者からは、「子供たちが遊ぶ場所がない」という声が多かった。五木村には後世に伝えるべき自然や文化が多くあるが、それは子供たちには十分には伝わっておらず、また興味も与えられていない状況にある。しかし現在の観光客の幅を広げていく上でも、子供たちにも受け入れられるような体験型のイベントが必要であると考ええる。

表一 5 来村者の属性

属性	家族、親戚 (配偶者のみ)	友達	一人	家族、親戚 (配偶者以外)	家族、親戚 (配偶者含む)	仕事仲間	計
組数	66	25	19	16	13	2	141



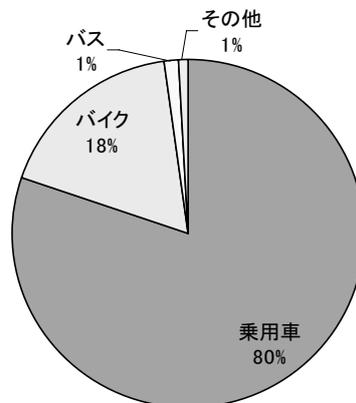
図一 6 来村者の属性

e) 交通手段

表一 6、図一 7 では、乗用車が113組（80%）、バイクが25組（18%）で、大半の来村者が乗用車を利用していることが分かった。公共交通機関は人吉市からしか直通バスがなく時間も1時間以上かかる。よって時間的な面や利便性の面からも乗用車やバイクを利用する観光客が多い。バイク利用者に関して注意することが1点ある。それは、バイク利用者は単に交通手段としての面だけでバイクを利用していないということである。質問紙調査で、バイク利用者25組中15組（60%）がツーリング中であることが分かった。バイク利用者は乗用車の利用者とは違い移動する手段として利用しているだけでなく、運転する行為そのものを楽しんでいる。五木村は山間地に位置しているのにもかかわらず、川辺川ダム周辺工事の影響で氷川町方面から五木村へ続く道は特に整備されており、しかも交通量も比較的少ないことからツーリングをするには絶好の場所である。バス利用に関して、現時点ではごく僅かではあるが、近年は五木村への観光ツアーとして利用されるケースが増えているという。今回は詳細な調査はしていないが、バスは多くの来村者を連れてくるため、今以上に利用を伸ばしていく必要がある。

表一 6 来村者の交通手段

	自家用車	バイク	バス	その他	計
組数	113	25	2	1	141



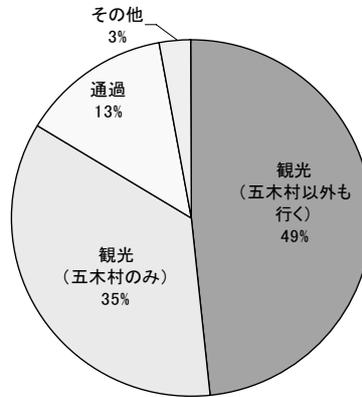
図一 7 来村者の交通手段

f) 来村目的

表一 7、図一 8 では、五木村以外の観光地にも行く来村者が68組（49%）に対し、五木村しか行かない来村者は50組（35%）となっている。そして他の観光地に行く途中に立ち寄った来村者（通過と表示）が19組（13%）と続いている。五木村に近接する八代市に平家の里として有名な五家荘があり、ここを訪れる観光客が多い。五家荘までの距離は自家用車で1時間くらいの距離ではあるが、ルートは比較的分かりやすいため、五家荘から五木、または五木から五家荘へと行く観光客が多かった。

表－7 来村目的

目的	観光 (五木村以外も行く)	観光 (五木村のみ)	通過	その他	計
組数	68	50	19	4	141



図－8 来村目的

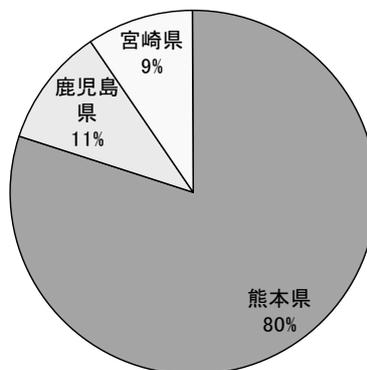
g) 五木村以外の立ち寄り場所 (都道府県別)

表－8、図－9では、全75件中、熊本県が60件で多数(80%)を占めている。続いて宮崎県が8件(11%)、鹿児島県が7件(9%)となっている。今回の調査が偶然なのかもしれないが、熊本県、鹿児島県、宮崎県の3県しか名前が挙がらなかったのは意外だった。福岡県や長崎県など名前が挙がらなかった県は時間的に都合が合わないことから見送られた可能性がある。

表－8 五木村以外の立ち寄り場所 (都道府県別)

県名	熊本県	鹿児島県	宮崎県	計
件数	60	8	7	75

※複数の県を訪れた来村者がいるため、実際の来村者の組数とは一致せず。



図－9 五木村以外の立ち寄り場所 (都道府県別)

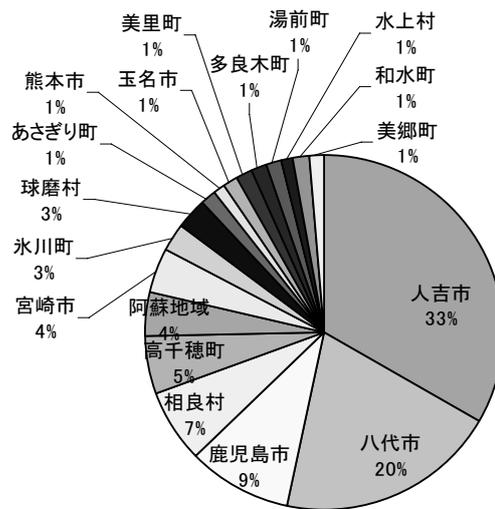
h) 五木村以外の立ち寄り場所（市町村、地域別）

表－9、図－10では、人吉市が75件中25件で全体の約3割（33%）を占めている。続いて八代市が15件（20%）、鹿児島市が7件（9%）となっている。後述するが、人吉市は五木村への来村者が最も宿泊する地域であり、また熊本県内初の国宝に指定された青井阿蘇神社や人吉城など観光資源も豊富なため、立ち寄る観光客が多いのではないかと考える。次点の八代市には平家の里として有名な五家荘があることから、立ち寄る観光客が多い理由の一つであると考え。図－9では熊本県内の市町村に立ち寄る来村者が圧倒的に多いイメージを持ったが、逆に図－10では熊本県外の市町村にも比較的立ち寄ることが分かった。鹿児島市が第3位、高千穂町（宮崎県）が第5位にあり、人吉、八代の両市には及ばないが、一定の人気を維持していると考え。

表－9 五木村以外の立ち寄り場所（市町村、地域別）

	人吉市	八代市	鹿児島市	相良村	高千穂町	阿蘇地域	宮崎市	氷川町	球磨村	
件数	25	15	7	5	4	3	3	2	2	
	熊本市	あさぎり町	玉名市	美里町	多良木町	湯前町	水上村	和水町	美郷町	計
件数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	75

※複数の市町村、地域に行った来村者がいるため、実際の来村者の組数とは一致せず。



図－10 五木村以外の立ち寄り場所（市町村、地域別）

i) 五木村隣接（一部近郊）市町村内での立ち寄り場所

五木村観光協会が配布している「五木、五家荘マップ（付録：質問紙調査票4枚目参照）」を基に来村者に対して、五木周辺での立ち寄り場所を尋ねてみると、来村者全141組中35組（回答数40件）から具体的な場所の回答（複数回答あり）があった。具体的には、五家荘（八代市）が11件、川辺川ダム建設予定地（相良村）が9件、樅木吊橋（八代市）が6件、せんだん轟の滝（八代市）が4件、二本杉峠（八代市）が4件、宮原地区（氷川町）が2件、小原の吊り橋（八代市）、菖蒲谷（八代市）、柿迫集落（八代市）、および日本一の石段（御坂遊歩道）（美里町）が同数で各1件となった。相良村の川辺川ダム建設予定地は、現在日本中で注目されている場所の一つである。民主党への政権交代、さらに前原

国土交通大臣の川辺川ダム建設予定地視察（2009年9月26日(土)）などにより、興味を持ち五木村や相良村に来られる方が多かった。しかし、これは短期的なものと思われるので留意が必要である。

一番回答が多かった五家荘（八代市）であるが、ここは「平家の里」として有名であり頭地から車で約1時間の距離にある観光地である。「五家荘に行く」とした回答数10件の中で県外の観光客が5件と半数を占め、改めて全国的に知名度があることが分かった。県外の観光客を五木村に呼び込むには、いかにして五家荘に立ち寄る観光客を呼び込めるかも一つのポイントである。その場合、決して観光客を取り合うのではなく逆に観光客を共有し合い、お互いが発展し合うことが大事である。また、3番目に回答が多かった樅木吊橋（八代市）であるが、これも県外からの観光客が多く、6件中4件も占めていた。樅木吊橋は五家荘の側にあるため比較的県外観光客が多いのかもしれないが、今回の調査では五家荘に行った来村者と樅木吊橋に行った来村者は重なっていないためこちらも知名度があるのだろう。全体的に見て、五木村を訪れた来村者が五木村周辺を訪れる割合が全体の24.8%に留まっており、予想以上に割合が低いことが分かった。五木村への来村者を増やしていくには、前述したが近隣の名所を訪れる観光客も取り込むことが重要である。

j) 五木村内の立ち寄り場所

前項「i) 五木村隣接（一部近郊）市町村内での立ち寄り場所」と同様に五木村観光協会が配布している「五木、五家荘マップ」を基に、来村者に対して五木村内で道の駅以外に立ち寄った、あるいは立ち寄る予定の場所を尋ねると、来村者全141組中18組（回答数22件）から具体的な場所の回答（複数回答あり）があった。温泉センターが8件、白滝公園が4件、宮園地区の大銀杏が3件、資料館やませみ、湧き水が出る場所が同数で各2件、もみの木食堂、役場、大通公園が同数で各1件であった。今回の調査で中心地を訪れた来村者の12.7%しか五木の他の地域に足を運んでおらず、他の場所にいく来村者が非常に少ないことが分かった。五木村は中心部以外を訪れる観光客が少ないという問題があるが、決して魅力が無いということではない。今回集計はしていないが、湧き水が出るところには常に人が集まって水を汲んでいたり、もみの木食堂では多くのバイク愛好家が利用していたりする姿も見られた。

k) 宿泊状況

表-10、図-11では、日帰りが119組で大半（83%）を占めている。「宿泊する」の回答の中では「1泊2日」が最も多く13組（9%）である。五木村は慢性的に宿泊施設の不足が続いている。五木村役場が発行している「五木村観光ガイドBOOK」で掲載されている宿泊施設は7軒しかない。その宿泊施設も大規模なものではなく、宿泊可能な人数も多くはない。その上ダム工事関係者が多く利用しており、観光客が泊まれる人数は限られている。今回の調査で五木村に来て泊まってみたいという声も聞かれたが、現実には空きが少ない状況である。このことが五木村の観光客は日帰り客が多い要因の一つでもある。

表-10 来村者の宿泊状況

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	5泊6日	6泊7日	7泊8日	不明	計
組数	119	13	4	4	1	1	1	1	141

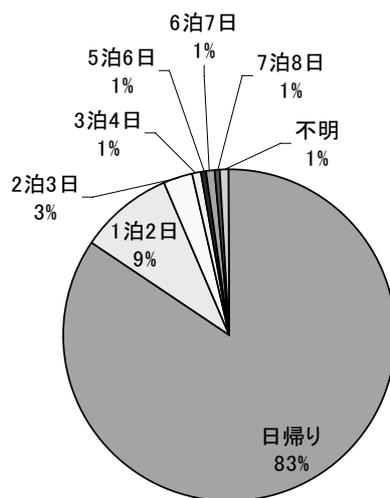


図-11 来村者の宿泊状況

1) 宿泊場所（都道府県別）

表-11、図-12では、熊本県が14件（56%）であり、鹿児島県と宮崎県が同数で各4件（16%）と続いている。地元の熊本県を除くと上位は九州南部の県が多い。特に鹿児島県や宮崎県は今回以外のデータでも上位に位置しており、他の県に比べて特に人的交流、移動が多いことが分かった。また福岡県は図-3、図-4の発地の状況では上位に位置しているが、図-12では極めて少数であり、五木村の来村者はあまり福岡県には泊まらない傾向があることが分かった。これは距離、時間的な問題や五木村への来村者の目的に元々入っていないことが理由の一つであると考えられる。

表-11 来村者の宿泊場所（都道府県別）

県名	熊本県	鹿児島県	宮崎県	福岡県	大分県	不明	計
件数	14	4	4	1	1	1	25

※複数の県で宿泊した来村者がいるため、実際の来村者の組数とは一致せず。

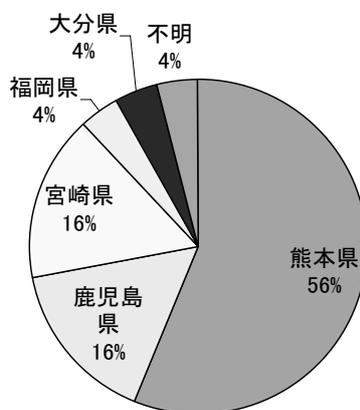


図-12 来村者の宿泊場所（都道府県別）

m) 宿泊場所（市町村、地域別）

表-12、図-13では、人吉市が8件で全体の約3割（32%）を占めている。続いて鹿児島市が3件（12%）、阿蘇地域と五木村が同数で2件（8%）となっている。図-12より五木村の来村者の17%しか宿泊していないことが分かったが、図-13ではさらに宿泊する来村者の中でも五木村に宿泊をする来村者が8%しかいないことが分かった。全体的に見ると、宿泊した組は来村者全141組中2組である。五木村が宿泊客を増やす方向を目指しているならば、この結果は極めて厳しいものである。

表-12 来村者の宿泊場所（市町村、地域別）

	人吉市	鹿児島市	阿蘇地域	五木村	天草市	山江村	福岡市	
件数	8	3	2	2	1	1	1	
	霧島市	別府市	宮崎市	日南市	高千穂町	小林市	不明	計
件数	1	1	1	1	1	1	1	25

※複数の市町村、地域で宿泊した来村者がいるため、実際の来村者の組数とは一致せず。

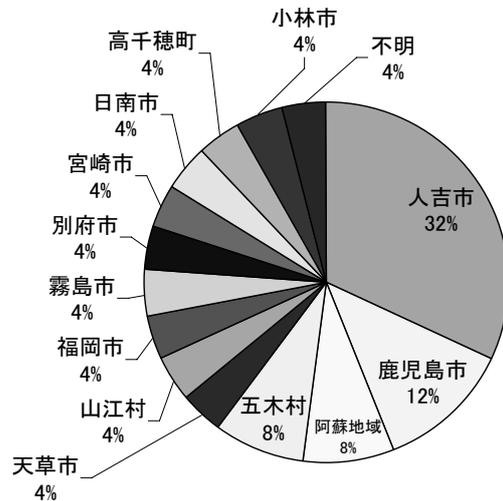


図-13 来村者の宿泊場所（市町村、地域別）

n) 五木村に対する評価

表-13では、「大変良い」、「良い」評価をした来村者は合わせて83組（59%）であった。町、道路の整備、アクセスの改善や自然、景観の豊かさに関しての評価が多かった。それに対し、「悪い」評価をした来村者は19組（13%）であった。町、道路の整備や豊かな自然の減少に対する不満が多かった。五木村は山間地に位置しているが、中心地の頭地やその周辺の道路が整備されており、来村者には概ね好評である。また秋には紅葉を見に、県内外から多くの観光客がやってくるほどの豊かな自然に対する評価は高い。そして子守唄の里として継承者の堂坂ヨシ子さんの唄も人気であり、ツアーが組まれるほどである。その反面、昔の五木村、頭地地区に愛着のある来村者の中には現在の整備された状況に対して違和感を覚え、以前の方が良かったという意見もあった。また他にも頭地地区の建物がほぼ全て代替地へ移ったため、以前よりも川辺川と離れてしまい、自然に触れ合いにくくなったという意見もあった。

表－13 五木村に対する評価

	大変良い	良い	どちらでもない	悪い	大変悪い	不明	計
組数	3	80	38	19	0	1	141

3. 五木村観光協会の観光発地実態調査データ

(1) 概要

五木村観光協会が2009年8月2日(日)、8日(土)、14日(金)、15日(土)、16日(日)、9月5日(土)、6日(日)の7日間に渡り、道の駅：「守唄の里五木」の駐車場で駐車している乗用車342台、二輪車105台、バス6台について集計を行った。

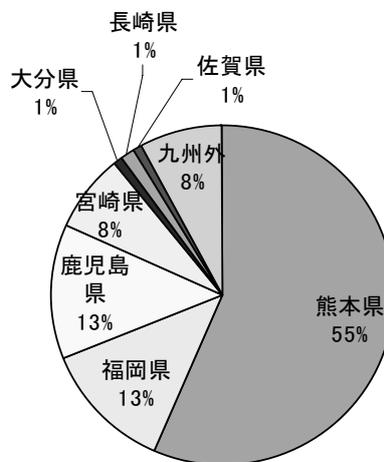
(2) 集計結果

a) 乗用車ナンバー調べ（都道府県別）

表－14、図－14では、熊本県が193台で約半数（55%）を占めている。続いて福岡県と鹿児島県が同数で各43台（13%）となっている。このデータにおいて九州外の都道府県の詳細は不明だった。このデータの集計時期がちょうどお盆の時期と重なっているため単純には比較できない面もあるが、概ね順位は質問紙調査の結果と似ている。傾向としては、表－2や図－2と同じく来村車の台数は九州北部よりも南部の県の方が多いことが分かった。

表－14 乗用車ナンバー調べ（都道府県別）

県名	熊本県	福岡県	鹿児島県	宮崎県	大分県	長崎県	佐賀県	九州外	計
台数	193	43	43	26	3	5	2	27	342



図－14 乗用車ナンバー調べ（都道府県別）

（資料）表－14、図－14は五木村観光協会「観光発地実態調査データ」より一部修正

b) 駐車状況調べ（時間帯別）

表-15、図-15では、乗用車は14時になるにつれて増加している。道の駅の近くには五木九領庵や五木温泉「夢唄」などの食事処もあって昼間は特に混雑しているため14時ごろまでは駐車場を利用する乗用車の台数が多いと考えられる。14時以降は、駐車してある乗用車の台数が急激に減少している。五木村は熊本市内からでも約2時間はかかり、県外からではさらに時間がかかる。そのため食事も終わり一段落ついた14時辺りから移動する客が多いからだと考えられる。今回の調査でも14時過ぎると満杯だった駐車場にスペースが空き、15時以降、ほとんど乗用車は駐車していない。五木村は宿泊施設が充分でなく、日帰り客が中心なため特にこの傾向が強いと考えられる。

次に二輪車（バイク）は10時ごろが一番のピークで12時になるに連れて急激に減少し、その後14時になるにつれて再び増加し14時以降に再び減少している。これは五木村が手軽なツーリングの場所として利用されていることを示している。近隣の市町村からツーリングを目的の来村者の中で、食事をしない人が多く見受けられた。つまり午前中ツーリングを行い、その後、家に帰って昼食をとる人や昼食をとってから午後にツーリングをする人が多いということである。

表-15 駐車状況調べ（時間帯別）

	10時	12時	14時	15時	計
乗用車	91	95	111	45	342
バス	2	1	3	0	6
二輪車	55	7	26	17	105

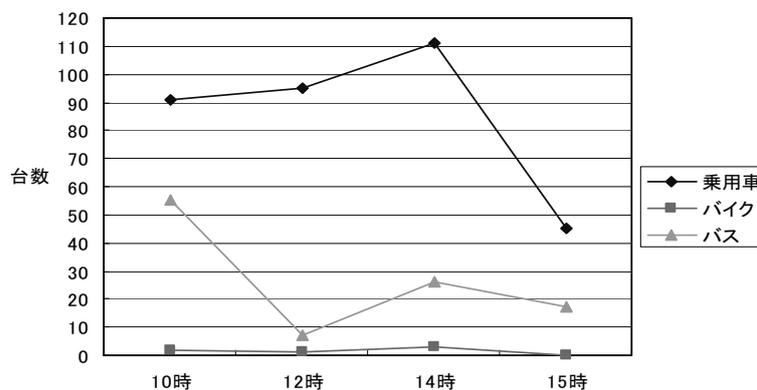


図-15 駐車状況調べ（時間帯別）

(資料) 表-15、図-15は五木村観光協会「観光発地実態調査データ」より一部修正

4. 調査の整理

(1) 質問紙調査の整理

- ・五木村来村者数（年代別）…60歳代が最も多く、若い人ほど少ない。
- ・来村者の発地（都道府県別）…熊本県が約半分を占め、鹿児島県、福岡県、および宮崎県と続く。
- ・来村者の発地（熊本県内市町村別、市郡別）…熊本市が約3割を占める。北部地域より南部地域からの来村者が多い。
- ・来村者の属性…「配偶者のみと来村」が約半分を占め、配偶者と来る割合が高い。
- ・交通手段…乗用車が大半を占めている。
- ・来村目的…「他の場所へも観光する」が約半分を占め、続いて「五木村のみ観光する」が約3割を占めている。
- ・五木村以外の立ち寄り場所（都道府県別）…熊本県が8割を占めている。
- ・五木村以外の立ち寄り場所（市町村、地域別）…人吉市と八代市で約半分を占めている。
- ・五木村隣接（一部近郊）市町村内での立ち寄り場所…五家荘（八代市）と川辺川ダム建設予定地（相良村）を訪れる人が多い。
- ・五木村内の立ち寄り場所…温泉センターを訪れる人が多い。
- ・宿泊状況…「日帰り」が約8割を占めている。
- ・宿泊場所（都道府県別）…熊本県が約半分を占め、鹿児島県と宮崎県が続いている。
- ・宿泊場所（市町村、地域別）…人吉市が約3割を占めている。
- ・五木村に対する評価…「大変良い」、「良い」の合計が約6割を占めている。町、道路が整備され、アクセスが改善されたことに対する評価や自然、景観の豊かさに関する評価が多い。

(2) 集計結果の整理

- ・乗用車ナンバー調べ（都道府県別）…熊本県が約半分を占め、福岡県と鹿児島県が続いている。
- ・駐車状況調べ（時間帯別）…乗用車において、14時になるにつれて増加し、14時以降は乗用車の台数が急激に減少する。二輪車において、10時と14時にピークを迎えている。

5. 五木村の観光の問題と提言

(1) 問題点

- ・来村者の割合が60歳代、50歳代に集中しており、若年層の割合が極端に少ない。その上、子供たちが楽しめるコンテンツが不足している。
- ・頭地以外の地域を訪れる来村者が少ない。
- ・日帰り客が五木村来村者全体の8割を占め、しかも数少ない宿泊客も他の市町村へ流れている。
- ・道の駅の駐車スペースが限られており、バスの駐車をする時に他の乗用車や二輪車の駐車に支障をきたしている。

- ・五木村の近郊市町村との連携した観光対策がなされていないため、五木村周辺を訪れている観光客を呼び込めていない。

(2) 提言

今回の調査により、五木村の観光の現状や問題が明らかになった。これらを通して五木村が今後取り組むべき課題を提言する。

1つ目は幅広い観光客の誘致である。五木村の道の駅を訪れる来村者は、50歳代から60歳代が中心で配偶者と一緒に来る人が多く、彼らは五木村の豊かな自然を見て楽しみ、蕎麦や鹿肉などを使った料理を堪能し、栗、ヤマメ、および椎茸などの物産の買物を満喫している。しかし、それは大人たち好みのコンテンツであり、子供達や若い世代にはその良さや興味を十分に引くものではない。将来的に幅広く多くの観光客に来てもらうためにも現在の形態だけでなく五木村自体を体験できるスペースを設けてはどうだろうか。例えば、達成者には五木オリジナルの景品がもらえるスタンプラリー等、観光客が単に目で見ただけでなく、肌で感じ、体験できる企画を出すことで、若年層にも興味を持たせることができると思う。さらに村内の中心地以外の立ち寄り場所はもちろんのこと近隣自治体の協力により範囲を村外の観光スポットにまで広げられれば更なる効果が期待できる。

2つ目は受け入れ体制の充実である。現在、五木村は宿泊所の数や宿泊人数も限られ、さらに工事関係者が常時宿泊しており、十分な宿泊体制がとられていない状況である。そのため日帰り、または近隣市町村への宿泊という形態でしか来村者は観光することができていない。今回の調査でも五木村に泊まりたいという声は挙がっており、早急な対応が迫られている。新たに施設を作るのは財政的にも厳しいと思われるため、地域の力も借りて民泊の体制を整備してはどうだろうか。観光振興は地域の協力なしには意味をなさないため、地域を活性化し、村民の生きがい作りの一環としても効果はあるのではないかと考える。

また五木村へのツアーが近年企画されており、人気があるということだが、今後発展、拡大していくと、今以上に駐車場のスペースがなくなってくる恐れがあるため、自家用車や二輪車の妨げにならないような十分なバス専用のスペースを確保することが必要である。

3つ目は他の市町村との連携である。財政基盤が強くない自治体は単独よりも連携して対策を行う方が高い効果を得られる。五木村の周辺には全国的に平家の里で有名な八代市の五家荘があり、その五家荘は五木村からそう遠く離れていない場所でアクセスもしやすい。また今回の調査で五木村への来村者の中には五家荘へ行く人もいることが分かった。以上よりお互いに連携し合うことで相乗効果が生まれ、新たな経済効果を生む可能性がある。財政力が強くない自治体こそ周辺の市町村、地域と連携した取り組みが重要であると思う。

以上の提言が五木の観光振興を促進し、村人の生きがいを生み出してくれることを願い終わりとしたい。

謝辞：今回の調査に際して、上野真也先生、柿本竜治先生、円山琢也先生、河村洋子先生には様々なご指導を頂きました。そして、五木村役場の土肥様、五木村観光協会の田中様、株式会社子守唄の里五木の富永様、五木村の来村者の皆様には調査の際に快く御協力していただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

付 録

質問紙調査票（1枚目）

五木村来村者調査票

（平成21年 月 日 時 分）

調査場所：道の駅駐車場

熊本大学では五木村の豊かな自然を生かしたまちづくりについて考えていくことを目的とした調査を行っております。その一環として、五木村を訪れた方々が村のどこに魅力を感じているのかを知り、観光振興をしていく上での課題や可能性を見出すためのアンケートを実施しております。個人情報（お名前やご住所など）は一切伺いませんので、お答えいただいた方を特定することはありません。ご協力のほどよろしくお願いいたします。何かご不明な点がありましたら熊本大学政策創造研究教育センター（担当者：長谷部俊之）までご連絡ください。

（E-mail: hasebeak@kumamoto-u.ac.jp、TEL: 096-342-2037）

質問1. どちらから来られましたか。

_____ 都・道・府・県 _____ 市・町・村

質問2. 年齢、性別をお書きください。

年齢: _____ 才、性別: _____ 男・女

質問3. どなたと来られましたか。主に該当するものに○を付けて下さい。

①一人で来た ②家族・親戚と来た ③友達と来た ④仕事仲間と来た

②～④とお答えのかたは、何人ですか。自分を含めないで人数を教えてください。

_____ 人

質問4. 質問3で「②家族・親戚」と答えられた方にお聞きします。具体的にはどなたです

か。該当するもの全て○を付けて下さい。

①父・母 ②配偶者 ③子供 ④孫 ⑤その他()

質問紙調査票（2枚目）

質問 5. どの交通手段を使われましたか。該当するもの全て○を付けて下さい。

- ①自家用車 ②バス ③JR ④バイク ⑤その他()

質問 6. 今回五木村に来られた主な目的は何ですか。

- ①観光のため ②仕事のため ③里帰りのため ④その他()

質問 7. 質問 6 で「①観光のため」と答えられた方にお聞きします。五木村のことをどのよう
にして知りましたか。該当するもの全て○を付けて下さい。

- ①新聞 ②雑誌 ③チラシ ④インターネット ⑤テレビ ⑥ラジオ
⑦知人から聞いた ⑧その他()

質問 8. 今回五木村のどのような場所に行かれましたか(行く予定ですか)。裏面の地図
の該当箇所に全て○を付けてください。

質問 9. 今回五木村以外の場所に行かれる予定はありますか。ある場合は所在地をお書
き下さい。

- ①ない ②ある (市・町・村)

質問 10. 五木村に来る前のイメージはどうでしたか。あなたの考えに最も近いもの1つ
に○を付けて下さい。

- ①大変良い ②良い ③どちらでもない ④悪い ⑤大変悪い

質問 11. 五木村に来た後のイメージはどうですか。あなたの考えに最も近いもの1つ
に○を付けて下さい。

- ①大変良い ②良い ③どちらでもない ④悪い ⑤大変悪い

質問 12. 質問 11 の理由を自由にお書きください。

--

質問13. 日帰りですか。それとも宿泊ですか。

- ①日帰り ②宿泊(泊日)

②とお答えの方は、五木村内、五木村外どちらに泊られますか。後者の場合は宿泊場所をお書きください。

- ①五木村内 ②五木村以外(市・町・村)

質問14. お土産は買われましたか(買われる予定ですか。)

- ①買った / 買う予定 ②買わなかった / 買わない予定

質問15. 質問14で「①買った/買う予定」と答えられた方にお聞きます。その商品は何ですか。

- ①やまめ ②お茶 ③五木の掛け干し米 ④豆腐の味噌漬 ⑤椎茸 ⑥漬物
⑦木工品・陶芸品 ⑧その他()

質問16. 昼食はどちらで食べられましたか。

- ①五木村内の飲食店 ②五木村以外の飲食店(市・町・村)
③持参した ④その他()

質問17. 五木村に対して何か要望があれば教えてください。

※ご協力ありがとうございました。

◎質問8の該当箇所を右の地図に○で付けて下さい。 → → → → → → → → → →

参考文献

- 1) 五木村HP [http://www.vill.itsuki.lg.jp/]
- 2) 熊本県、五木村「五木村村勢要覧いつき」2009, P15

(2010. 1. 12受付)

ITSUKI VILLAGE TOURISM ISSUES BASED ON VISITOR INTERVIEW

Tosiyuki Hasebe

Itsuki village, Kumagun, which is located in south-central Kumamoto prefecture, is suffering from depopulation and problems by fewer children and aging population. Forestry, the main industry in the village, is in difficult situation and most of its part is now in small scale. In addition, vitality of people in the village is losing due to the issues by new dam construction plan and damage of farm products by monkeys and deer. However, the village has many natural and cultural resources with historical value and many visitors are attracted by such resources. In order to revitalize the village and keep the motivation of life of the people, tourism will be an important industry from now on. In this study, I interviewed the visitors (except for tourists by bus) in parking space in MICHINOEKI in Itsuki village to capture the current situation of the tourism. Then, I investigated their properties and behavioral patterns. Finally I suggested some policies to improve the situation based on the surveyed results.